

高速道路を見据えた地域振興実現へ向け

(仮称)「元気きたうら協議会」の設立が決まりました。

東九州自動車道の「延岡～北川」、「北浦～蒲江」間が来年3月に開通し、その1年以内には「北川～須美江」間が開通し、いよいよ北浦町にも高速道時代が到来します。

この高速道開通を地域振興の大きなチャンスにとらえ、地域が丸となって町を発展させるべく、北浦漁業協同組合の宇戸田定信組合長、北浦町商工会の永出明会長、JA 延岡北浦支店の山本光公支店長、北浦地区区長会の中西功会長、延岡市北浦町総合支所の木原一成支所長の5氏が発起人となり、(仮称)「元気きたうら協議会」の設立趣旨説明・懇親会が3月22日(木)に道の駅北浦のミニシアターで行われました。

当日は、同協議会の設立に賛同いただいた各種団体の代表者など、39名の参加があり、発起人を代表して永出商工会会長から「北浦町民が一体となり、高速道時代を見据え、地域の一層の発展に向けた町おこしを実現していくため」と同協議会の設立趣旨が説明されました。また、

(基本姿勢)

- ・北浦町の風土を愛し、互いを思いやり、住民同士の絆を大切にします。

(地域資源を活かす)

- ・北浦町の人、豊かな自然、農林水産特産品、歴史、文化を最大限に活かします。

(町民の協働)

- ・多くの町民の参画を得て、町民の思いを結集し、楽しみながら創り上げます。

(挑戦と感動)

- ・「新進気鋭の気風」と「おせったいの心」で挑戦と感動を共有します。

の4項目を基本理念とする決議文が満場一致で承認されました。

懇親会では、特産品料理に舌鼓を打ちながら、北浦町の将来への想いを大いに語り合いました。

今後、各団体、事業所等からメンバーにふさわしい方を推薦いただき、また、有志を募るなどして、当面は具体的な協議会づくりを進めます。

多くの町民の方々の参画を期待します。

北浦町の人口-1124.3.1現在-	
(前月比)	
男性	1,978人 (-9)
女性	2,117人 (-1)
合計	4,095人 (-10)
世帯数	1,673世帯



地震発生！津波が襲来・・・その時あなたは逃げていますか？

人はなぜ避難しないのか・・・。東日本大震災において、津波の最大波の到達は、多くの地域で地震発生から30分以上も経過した後だったにも関わらず、2万人近い死者と行方不明者が出てしまいました。被害に遭ってしまった理由の一つに「避難しなかった人がいた」ことが挙げられます。今回は、人はなぜ避難しないのか、ということについて、考えます。

地震発生 14:46	
観測地	最大波到達時刻
岩手県宮古市	15:21
岩手県釜石市	15:21
宮城県石巻市	15:20
福島県いわき市	15:39

1 防波堤等への過信

岩手県宮古市の田老地区には、「万里の長城」と呼ばれる堤防がありました。この地は、過去何度も津波に襲われ、その教訓から津波に対する意識も高く、津波の被害を防ぐために町に海面高さ10m、総延長2.4kmに及び堤防を造りました。

しかしながら、ご存じのとおり津波は堤防を越えて襲いかかり、166人の死者を出しました（平成23年7月現在）。この中には、「堤防があるから津波は来ない」と油断していた人たちがいたと想像できます。

2 災害発生時の心の動き

大災害になると、人はパニックになって逃げまどうようなイメージがあります。しかし、実際の映像を見てみると、大きく揺れている場面では、悲鳴を上げたり、建物から逃げたりしていますが、揺れが収まると、その場で呆然と突っ立っています。津波を目にしてようやく、事態を飲み込んだように逃げ始めます。人はどうやら、目に見えないものは、危険として実感できないのではないかと考えてなりません。津波は人間が走るよりも速いスピードでやってきます。（陸地に上がっても時速30km以上の速さで進みます。）危険が迫ったことを目の当たりにしてからではもう遅いのです。

近年の防災心理学の研究では、「人はパニックにならない。」とされています。その様子を右のページ（図1）で説明しています。このような「勝手な思いこみ」と「落ち着いて行動すること」とは明らかに違うことを知ってください。

震災から1年経った3月14日18時9分頃に三陸沖で発生した地震は、震度4の揺れで津波注意報も発令され、青森県の3市村では、1万403人を対象に避難勧告が出されましたが、避難したのは、わずか3.5%にあたる362人（青森県発表）だったそうです。避難所以外に逃げた人もいるでしょうが、とても少ない数です。

五十歩百歩という言葉があります。戦場において50歩逃げるも、100歩逃げるも、逃げることに変わりがない、という意味の故事成語ですが、津波避難においては、人は津波に太刀打ちできないし、50歩でも100歩でも逃げた人は、逃げなかった人よりも確実に生き残る可能性が高いと言えます。この日、避難した人が言っていました。「人に笑われてもいいから、どんな小さな津波でも避難しようと思った。」と。感心する心がけだと言えます。

1月30日3時18分。北浦では久しぶりに震度4という地震が発生しました。まだ夜も明けない頃の出来事でしたが、皆さんはどういう行動をとったのでしょうか？

来月は、避難訓練についてお話しします。今年も地震津波対策訓練を実施します。期日は5月27日（宮崎県防災の日。毎年5月第4日曜日。）の予定です。

《北浦町総合支所 地域振興課 Tel45-4233》

地震・津波発生

周りの人が逃げよう
としない。

周りにたくさん人が
いる。

高い防波堤がある。

小さい地震がよく起
こり、慣れてしまう。

自分も逃げなくて
も大丈夫だろう。

みんながいるか
ら安心だ。

ここまで津波は
来ないだろう。

また地震か。どう
せ今度も津波は
来ないだろう。

多数派同調性バイアス

- ・周りの人の動きを探りながら、同じ行動を取ることが安全だと先入観で考えてしまう。
- ・多数意見が正しいと思いきこむこと。

集団同調性バイアス

- ・集団でいると他の人と別の行動をしにくくなる。
- ・お互いに無意識にけん制あい、他人の動きに左右されてしまう。
- ・個人の判断よりも集団を過大評価してしまう。

正常性バイアス

- ・自分に都合の悪いことが起こるはずないと思いきこむ。
- ・根拠もなく、自分は大丈夫だろうと思いきこむ。

「バイアス」とは？

思いきこみや偏見による誤った考え方のこと。

こうして、自分に迫り来る危機に対して、**思考停止状態**におちいり、**逃げるタイミング**を失ってしまう。

災害が起こったら、これらのバイアス(思いきこみ)からいち早く抜け出し、**「逃げる」という思考回路の安全スイッチ**を入れなければなりません。

災害報道の工夫 ～「落ち着かせること」から「いち早く避難させること」へ～

東日本大震災の教訓から、災害発生時の避難を呼びかける文言が、切迫感を強調した表現に変更されました。

「高い所に逃げてください。」

→ 「高い所に逃げる**こと**。」 (命令口調)

「津波は急に高くなる**こと**があります。」

→ 「津波は急に高くなり**ます**。」 (断定口調)

【表現方法】

「東日本大震災を思い出してください。」

「命を守るため、一刻も早く逃げて**ください**。」

津波警報の表示のほか、「すぐ避難を！」と大きな文字で表示する。

4月の行事予定表

4月 1日(日)	第14回さくらマラソン大会	9:00~下阿蘇芝生広場
1日(日)	市立図書館北浦分館オープン	9:00~北浦分館
12日(木)	三川内・北浦中学校入学式	10:00~三川内・北浦中学校
13日(金)	三川内・北浦小学校入学式	10:00~三川内・北浦小学校
15日(日)	キタウラマルシェ	9:00~北浦海浜運動公園周辺

平成24年度 市政連絡員が決まりました!

一年間、よろしくお願ひします。

地区名	氏名
阿蘇	河野 喜代文
本村	高平 文雄
浜中	西村 伸博
中野内	小田 敏通
地下	工藤 若夫
市振	中西 功
直海	酒井 敏勝
宮野浦	山口 昭二

地区名	氏名
歌糸	大野 繁明
梅木	小野 伊豆子
大井	甲斐 棋愨
市尾内	川野 泰典
下塚	渡部 光也

※ 地区区長、公民館長を兼ねています。

《北浦町総合支所 地域振興課 TEL45-4233》

特定健診の申し込みについて

健康を保っていくために、毎年1度は健診を受けましょう。今年も6月から実施される健診の案内が4月初めに配布されます。健診を希望される方は、広報とともに配布されてきた健診申込書に必要事項を記入のうえ、各地区の公民館館長さん宅へ4月末までに提出してください。

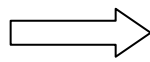
《北浦町総合支所 市民サービス課 福祉保健係 TEL45-4234》



忘れ物・落し物をお預かりしています

総合支所で、忘れ物や落し物を数点お預かりしています。心当たりのある方は地域振興課までお越しください。

- ・ 老眼鏡 2点
- ・ ブローチ
- ・ ハンカチ (ungaro 花柄)
- ・ ネクタイピン



《北浦町総合支所 地域振興課 TEL45-4238》